

高齢者の新型コロナワクチン接種について

本年4月12日から全国各地で高齢者への新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が始まりました。高齢者への接種に関する質問が本学会会員のもとにも多く寄せられていることから、会員ならびに一般市民向けに以下のメッセージを発信いたします。

まず、高齢者は新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすく、死亡率(70歳代5.2%、80歳以上13.9%：本年4月21日厚生労働省発表データ)も高いことがわかっています。

それに対してワクチンの効果が期待されますが、高齢者でも9割以上の発症予防効果があることが報告されています。

一方、心配される副反応ですが、1回目に比べ、2回目の接種後に接種部位の腫れ・痛みに加えて、発熱・疲労感などの全身症状もより多くみられています。しかし、高齢になるほど副反応の発生率は低く、国内の医療従事者接種を対象とした調査では(厚生労働省研究班中間報告)、37.5度以上の発熱は全体では38%にみられたのに対し、65歳以上では9%でした。アナフィラキシーショックや血栓症などの重篤な副反応は、極めてまれです。

以上のように、高齢者でもワクチンのメリットは副反応のリスクを上回るため、基本的にワクチン接種が推奨されます。ただ、持病がある方や体力の落ちた方はかかりつけ医とよく相談して判断ください。また、肺炎球菌ワクチンの接種の予定のある方は、2回目の新型コロナウイルスワクチン接種後2週間以上あけて、肺炎球菌ワクチンを接種するか、肺炎球菌ワクチンを接種してから2週間以上あけて、新型コロナウイルスワクチンの1回目を接種してください。

詳しい情報は、以下のホームページから入手できます。

[私は接種できますか？ | 新型コロナワクチン Q&A | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

[ワクチンの安全性と副反応 | 新型コロナワクチン Q&A | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

2021年4月30日 日本老年医学会 新型コロナウイルス対策チーム